

| | | | |
|--------------------------|--|---------|--|
| 1. 科目名 (単位数) | 発達心理学 (2 単位) | 3. 科目番号 | SBMP2342 |
| 2. 授業担当教員 | 水谷 聡秀 | | SSMP2342 |
| 4. 授業形態 | 講義、ディスカッション、グループ討議・発表 | 5. 開講学期 | 秋期 |
| 6. 履修条件・他科目との関係 | 「心理学入門」「心理学概論」を履修していることが望ましい。 | | |
| 7. 講義概要 | 今日の発達心理学は、人間の受精から死までを扱う「生涯発達心理学」を意味する。本講義では、最初に発達の全体的なプロセスやメカニズムについて、概観する。そして、身体、認知、感情、言語、社会性など、それぞれの機能がどのように発達していくか、考えたい。また、現代の少子高齢化社会や情報社会特有の問題と発達との関係、幼児や児童、生徒の心身の発達を踏まえて、主体的な学びをさせる指導法、関わり方についても講義、ディスカッション等を行いながら、学習を進めていく。 | | |
| 8. 学習目標 | (1) 発達の過程および特徴を理解するための基本的概念および代表的な理論を理解し、説明ができる。 (2) 発達の機能的側面から、そのメカニズムを理解することにより、幼児や児童・生徒の学習を支える指導の基本的知識と視点を持ち、さまざまな発達の問題に対処できる。 (3) 学習内容を自分の発達問題として捉え、応用できるようにすることを通して、幼児や児童・生徒の主体的な学びを保障するあり方を体得できる。 | | |
| 9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題 | ・事前学習、事後学習に努めること。 ・2回レポートを課す。(A4用紙2枚、2,400字以上) ①児童期の問題 (虐待、いじめ、不登校など) ②青年期の問題 (モラトリアム、摂食障害、アパシー、ひきこもりなど) | | |
| 10. 教科書・参考書・教材 | 【教科書】 松原達也編『発達心理学－健やかな幸せな発達をめざして』丸善出版。 【参考書】 咲間まり子編『多文化保育・教育論』みらい社。 内田伸子編『発達心理学キーワード』有斐閣。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 | | |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法 | ○成績評価の規準 (1) 発達の過程および特徴を理解するための基本的概念および代表的な理論を理解し、説明ができる。 (2) 発達の機能的側面から、そのメカニズムを理解することにより、幼児や児童・生徒の学習を支える指導の基本的知識と視点を持ち、さまざまな発達の問題に対処できる。 (3) 学習内容を自分の発達問題として捉え、応用できるようにすることを通して、幼児や児童・生徒の主体的な学びを保障するあり方を体得できる。 ○評定の方法 ・試験・小テスト等 40% ・レポート等課題研究 20% ・平常点 (授業態度、ディスカッションへの参加、発表、発言) 40% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 | | |
| 12. 受講生へのメッセージ | ・本講義を通じて、発達心理学に関する基本的な知識を、単にテキストから学ぶだけでなく、自ら考え、調べ、他者との意見交換を通じながら、身につけること。 ・事前に該当頁を必ず読み、分からない言葉・用語・概念などを調べて、授業に臨むこと。 ・討議を毎回取り入れるので、積極的に発言すること。 ・授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。 ・他の受講生の学習に迷惑をかける行為 (携帯電話の操作、私語、居眠り、グループ活動に協力しない等) をしないこと。 | | |
| 13. オフィスアワー | 原則週に2コマを第1回の講義の際に指示をする。 | | |
| 14. 授業展開及び授業内容 | | | |
| 講義日程 | 授業内容 | 学習課題 | |
| 第1回 | オリエンテーション、発達心理学とは | 事前学習 | 生涯発達の概念について考える。エリクソンの心理社会的発達段階説を復習する。 |
| | | 事後学習 | 生涯発達のイメージをつくる。 |
| 第2回 | 胎児期・新生児期：赤ちゃん研究の最前線 | 事前学習 | 胎児期・新生児期の部分を熟読する。 |
| | | 事後学習 | 復習し、胎児期の母体の状態の大切さや新生児期の外界への反応の特徴を理解する。 |
| 第3回 | 乳児期：情緒・親子関係、ボウルビイの愛着理論 | 事前学習 | 乳児期の部分を熟読する。 |
| | | 事後学習 | 復習し、乳児期の行動の特徴や親子関係の大切さを理解する。 |
| 第4回 | 幼児期：自己と遊び、言語の発達 | 事前学習 | 幼児期後期の部分を熟読する。 |
| | | 事後学習 | 復習し、幼児期後期の仲間関係、遊びの発達や知能の発達について理解する。 |
| 第5回 | 児童期：友人関係と道徳性の発達、ピアジェの認知発達理論 | 事前学習 | 幼児期から児童期にかけての人間関係の発達、認知の発達の特徴を振り返る。 |
| | | 事後学習 | 児童期の仲間関係の特徴、道徳性と認知発達の関係について考察する。 |

| | | | |
|------|--|------|--|
| 第6回 | これまでの内容のまとめ・小テスト | 事前学習 | 配布資料を確認し、疑問点を整理する。 |
| | | 事後学習 | これまでの学習内容を振り返り、発達の連続性を確認する。 |
| 第7回 | さまざまな視点から発達を学ぶ | 事前学習 | 発達における自立と依存の関係を調べる。 |
| | | 事後学習 | 自立と依存についてまとめる。 |
| 第8回 | 青年期：アイデンティティの発達 | 事前学習 | 青年期の部分を熟読する。 |
| | | 事後学習 | 配布資料を復習し、青年期の身体と精神の発達を理解し、自分と向き合うことの意味について考察する。 |
| 第9回 | 成人前期：親密性と子育て | 事前学習 | 成人前期の部分を熟読する。 |
| | | 事後学習 | 復習し、成人前期の人間関係について理解する。また、家族を持つこと、子を育てることの大切さや大変さを考える。 |
| 第10回 | 成人後期：中年期の危機 | 事前学習 | 成人後期の部分を熟読する。 |
| | | 事後学習 | 復習し、成人後期に訪れる危機について理解する。 |
| 第11回 | 高齢期：よりよく生きるために | 事前学習 | 高齢期の部分を熟読する。 |
| | | 事後学習 | 配布資料を復習し、老年期の発達について理解し、高齢化社会をより過ごしやすくするためには何が必要か考える。 |
| 第12回 | 発達の危機：いじめ・不登校・ひきこもり | 事前学習 | いじめや不登校の部分を熟読する。 |
| | | 事後学習 | いじめや不登校などについての自分の見解をまとめる。 |
| 第13回 | 学生の視点から捉えた主体的な学びの演習・第1回目のグループ・プレゼンテーション | 事前学習 | これまでの学習内容の中から特に興味・関心を持ったテーマを選び、学生の視点からまとめ、パワーポイントによる発表準備を行う。質疑応答にも備える。 |
| | | 事後学習 | 他のグループの発表内容を振り返る。 |
| 第14回 | 学生の視点から捉えた主体的な学びの演習・第2回目のグループ・プレゼンテーション 相互評価 | 事前学習 | これまでの学習内容の中から特に興味・関心を持ったテーマを選び、学生の視点からまとめ、パワーポイントによる発表準備を行う。質疑応答にも備える。 |
| | | 事後学習 | 他のグループの発表内容を振り返る。 |
| 第15回 | 全体のまとめ・小テスト | 事前学習 | 授業内容を振り返り、生涯発達の視点から主体的な学びとは何かを考える。 |
| | | 事後学習 | 発達の本質について考察する。 |